

新年のご挨拶

若桜町長 上川 元張

新年あけましておめでとうござ
います。町民の皆様におかれまし
ては、穏やかで希望に満ちた新年
をお迎えのこととお慶び申し上げ
ます。

コロナ禍も丸3年を経て4年目
を迎えることとなりました。コロ
ナの収束は未だ見通せませんが、
これからは、コロナとの共存、ウィ
ズコロナの考え方で、ワクチンを接
種し、感染防止対策を徹底しながら、
社会経済を回していくことが
大切です。昨年は各種会議をなる
べくリアルで開催するよう努めて
きました。イベントも9月以降、
規模を縮小しつつ順次復活してき
ました。いずれも町内外から多く
の来場者でにぎわい、出店販売も
活況を呈し、久し振りに地域に活
力が戻ってきたことを実感しまし
た。

さて、私は昨年2月20日に皆様
のご支援をいただいて町長に就任
し、来月で1年となります。町政
課題に道筋を付けること、町民の
暮らしを守ること、地域経済を活
性化させること、この3つを常に
念頭に置きながら、職員とともに
業務に邁進し、あつという間に一年
が経とうとしています。この一年を
振り返ってみます。



▲除雪の様子（巻米）



一方、ロシアによるウクライナへの
侵略が勃発し、近隣諸国でも中台
関係の緊張や北朝鮮のミサイル問
題など、国際社会の秩序が大きく
揺らいだ年でもありました。国際
的な物流機能も大きく損なわれ、
食材費や燃料等のエネルギー価格
を始め物価が高騰し、私たちの生
活を直撃しています。一刻も早い国
際社会の平和と安定、国民生活の
安寧を願うものです。

さて、私は昨年2月20日に皆様
のご支援をいただいて町長に就任
し、来月で1年となります。町政
課題に道筋を付けること、町民の
暮らしを守ること、地域経済を活
性化させること、この3つを常に
念頭に置きながら、職員とともに
業務に邁進し、あつという間に一年
が経とうとしています。この一年を
振り返ってみます。

就任早々、巻米が4mを超える
災害級の豪雪に見舞われました。
町及び県の建設業協会の協力を
得て、諸鹿も含め除雪対応を行ひ
ました。近年気候変動により、雪
に限らず局地的な降水が増えてお
り、防災対策の重要性が増してい
ます。10月には町内全域を対象に
防災訓練を行いました。特に吉川、
巻米、諸鹿の三集落には現地本部
を設置しての訓練にご協力いただ

き、避難所の設営手順等の確認や
ドローンによる被災箇所の撮影訓
練を行いました。

また、物価高騰等の情勢も踏ま
え、5月補正予算で学校給食費の
無償化に踏み切りました。子育て
世代の負担軽減による定住促進を
狙ったものです。9月には町内在
住者やリターン者も対象とする総
合的な住宅支援制度を創設し、既
に3件の活用をいたでています。
加えて赤松団地の完売に伴う新た
な分譲宅地として、新町の製材所
跡地を造成する準備に着手するな
ど、住宅政策を拡充しました。一
方で、空家の増加が課題となっつい
ますが、8月に空家等対策計画を
策定し、空家の適正管理促進と管
理不全の危険空家等の除却の制度
を創設しました。年末に、補助金
を活用した撤去工事が第1号とし
て施工されました。

わかさ生協診療所が、施設の老
朽化に伴い移転されることとなり
ました。場所は新町の宅地造成予
定地の隣接地です。町内で引き続
き地域医療の灯を守っていただく
ため、町も施設整備や運営費の一

部を助成することとし、12月補正予算で認めていただきました。今秋のオープンを目指して準備を進めておられます。

町民の足となる公共交通については、4月にデマンド便を一台増の二台体制とし、利用者の増加に対応しました。また、5月からスクールバスを導入し、諸鹿谷、高野・上高野、屋堂羅地区の児童生徒の通学支援を行いました。共助交通の試験運行を行ってきました高野・上高野地区は、吉川地区に続いて

6月から本格運行に移行しましたが、今後も町民の利便性に配慮した公共交通機関の再編を進めます。若桜鉄道については、コロナ禍での利用客の減少等もあり、2年連続の赤字決算となりましたが、ツアーフェスティバル開催により観光客を中心に利用客が戻りつつあります。



▲購入したスクールバス

あります。

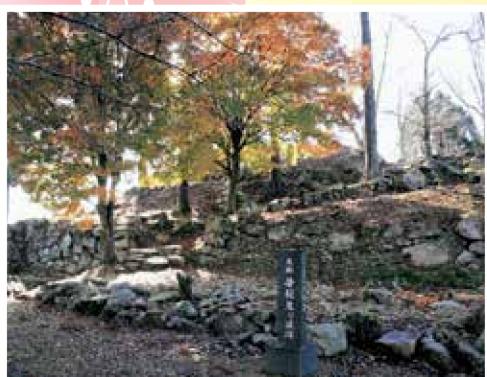
町民の暮らしに直結するインフラ整備として、来見野、吉川、栃原の町道新設改良及び県道吉川バパス整備など、一部遅れはあります。消雪装置については、優先順位を付けながら、高野・上高野地区の改修整備を進めています。

マイナンバーカードはこれからのデジタル社会の基盤となるものです。国の方針により、その普及率が今後の町内のデジタル環境整備にも影響することから、昨年8月以来、町民の皆さんに申請の呼び掛けをしています。12月上旬時点で申請率は6割を超え、7月以前から倍増の勢いです。皆様のご協力に感謝するとともに、カードの受け取り等引き続きのご協力をお願ひします。また、4月からの公金のコンビニ納付の導入は好評をいただき、利用者も増えています。今後も公金支払いの利便性向上に努めます。

産業面では、まず観光について。氷ノ山スキー場は昨シーズンは積雪に恵まれ、約4万5千人のお客様で賑わいました。アウトドアブーム

を見据え、キャンプ場の改修調査や氷ノ山グラウンドの改修設計を行っています。また、昨年は若桜鬼ヶ城跡が国の史跡に指定されて1周年を迎えました。秋には専門家などを招きして記念シンポジウムを開催しました。若桜鉄道の施設も含め、若桜地区とその周辺には貴重な文化財が数多く存在しており、今後これらを一体的に活用して一層の誘客に努めます。

人口減少対策やお年寄りの生活支援をはじめ多くの課題がありますが、町民の皆さんがいつまでも笑顔で暮らせるよう、今年も職員一丸となつて取り組んでまいります。さて、今年はうさぎ年です。うさぎは跳ねるので、飛躍の象徴であり、子だくさんであることから豊穣、子孫繁栄の象徴でもあります。町民の皆さんにとって、また若桜町にとって躍進の年となり収穫の年となりますことをお祈りして、新年のごあいさつといたします。



▲若桜鬼ヶ城跡

基幹産業である農業について。コロナ禍で下落した米価も昨年は少し持ち直しましたが、肥料や諸物価の高騰で農家の厳しい状況は

続いており、肥料代の支援を予定しています。町内農地の維持保全を担う有限会社若桜農林振興は、3月に認定農業者の資格を取得して自ら稲作等営農に乗り出し、機械の導入等体制整備を図られました。引き続き若桜米やエゴマ等の販路開拓と特産化を進めていただきます。林業については、林道・作業道の基盤整備を進めつつ、事業体への機械整備等の支援を行い、公道沿いの危険木の伐採を含め、間伐等森林整備を進めました。

支援をはじめ多くの課題がありますが、町民の皆さんがいつまでも笑顔で暮らせるよう、今年も職員一丸となつて取り組んでまいります。さて、今年はうさぎ年です。うさぎは跳ねるので、飛躍の象徴であり、子だくさんであることから豊穣、子孫繁栄の象徴でもあります。町民の皆さんにとって、また若桜町にとって躍進の年となり収穫の年となりますことをお祈りして、新年のごあいさつといたします。